



スタッフと笑顔で話す榊原陽子さん。右は夫の輝重さん＝名古屋市千種区の事務所、小川智撮影

「仕事も家庭も恋愛もあきらめないライフスタイルを多くの女性に実現してほしい」  
 社会保険労務士であると同時に、全日空の客室乗務員だった経験を生かして、「マザーリーフ」という会社を4年前に立ち上げた。女性講師による接客やビジネスマナーの研修、企業や施設の慶面調査などを手がける。目指す道は「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と家庭の調和）の実現だ。  
 今春からは1人社長や雑務を外注したい土業の事務などを請け負う事業を始めた。在宅やパートでも仕事したい女性向けの事業開拓にも取り組む。  
 名古屋市出身。1993年、

## 仕事術 ワタシ流

ヨクバリージョ+プラス

### 女性向け 働く場を開拓 笑顔の家庭 増やしたい

大学を卒業と同時に全日空に入社。地元・名古屋への配属をきっかけに27歳で管理部門に起用され、後輩の育成、組織運営などを任された。翌年、学生時分に知り合った夫の輝重さん(41)と結婚し、2001年3月で退職した。経験を生かしてマナー研修の講師を続け、社会保険労務士の資格も同年8月に取り、第1子妊娠中に開業した。  
 1年後に長女を出産したが、母乳しか飲まず、保育園に入園後もたびたび発熱するなど、育児は甘くなかった。「子どもは無理をさせて、周りにも迷惑をかけ、何のために働いているのか分からなくなった」。そんな時、輝重さんを通じて知った「社会を良くしていく社会起業家」の考え方に共感した。「エエ育てか、働くかの選択を迫るような社会ではないけない。世の中のママ、子どもたちの役に立つ仕事したい」。06年に起業を決意した。  
 輝重さんは、男性の育児を応援するNPO法人の役員を務める。陽子さんも「夫をイクメンにする」セミナーも開く。「笑顔があふれる家庭をもっと増やしたい。そうすれば子育ての人が輝く社会になる」  
 (川村真貴子)

◆「仕事術ワタシ流」は、今週から、前向きな女性を応援する朝日新聞名古屋本社のプロジェクト「ヨクバリージョ+（プラス）」の名を添え、引き継ぎ、魅力的な女性たちを紹介していきます。

マザーリーフ代表取締役 榊原 陽子さん (39)



**プロフィール**  
 1970年名古屋市生まれ。93年、全日空に客室乗務員として入社。2001年に社会保険労務士の資格を取得。  
 あこがれの女性  
 マザー・テレサ。広い心を持って仕事をしたい。  
 5年後の私  
 事務代行の仕事が軌道に乗ってほしい。  
 仕事のやりがい  
 お客さまと働きたい女性に喜んでもらえること。

私のヨクバリ  
 仕事でも子育てでもベストを尽くす。できたかどうかの達成度はさておき、最善は常に尽くしたい。「一番の願いは「子どもが良く育つこと」。そのためには笑顔あふれる家庭が大切だと思う。」